https://site2.convention.co.jp/jamp16/

第16回 日本運動器疼痛学会

The 16th Annual Meeting of the Japanese Association for the Study of Musculoskeletal Pain

ランチョンセミナー2

2023年11月3日㈮ 12:30～13:30

第2会場 富山国際会議場 2F/ 多目的会議室 201・202

富山市大手町1番2号

座 長

自治医科大学整形外科学教室 教授

竹下 克志 先生

演 者

千葉大学大学院医学研究院整形外科学 助教

稲毛 一秀 先生

慢性疼痛に対する多面的アプローチ

―最新トピックスから考える治療戦略―

慢性疼痛に苦しむ患者は世界人口の 20% 以上を占めるとも言われており、特に疼痛部位として運動器が最多であると報告されている。一方で、慢性疼痛の原因は多岐に渡り、その治療に関しても多面的なアプローチが必須である。そこで本講演においては、慢性疼痛に対する ⑴ 薬物療法、⑵多科多職種連携についての最新トピックスを紹介しながら、その治療ストラテジーについて解説を行う予定である。

⑴ 薬物療法 急性疼痛と慢性疼痛とでは治療戦略が異なる。また侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛でも治療戦略が異なる。すなわち疼痛フェーズや痛みの性状を十分に見極めた上で的確な薬剤を選択することが重要であることは言うまでもない。また 2017 年に国際疼痛学会（IASP）によって、第 3 の痛みとして「痛覚変調性疼痛」という用語が導入された。痛覚変調性疼痛については、そのメカニズムに不明瞭な部分が多いのが現状である。一方で難治性疼痛患者においては痛覚変調性疼痛を有する割合が多いとの報告もあり、その治療ストラテジーの確立が急務である。

⑵ 多科多職種連携 難治性疼痛患者に対しては、多科多職種連携などの集学的痛み治療が有効であるとの報告が散見される。特に集学的痛み治療を必要とする患者像としては、1. 医学的に説明が困難な強い痛みを訴える、2. 重度の機能障害がある、3. 強い精神的苦痛があるなどが挙げられる。このような難治性疼痛患者の治療に当たっては、特に精神疾患の合併（うつ病や発達障害 etc）や社会的因子など、多面的かつ多職種でのアプローチが重要である。そこで当院における、集学的痛み治療の実際（と多少のコツ）について解説する。

認定単位

●日本整形外科学会教育研修単位1単位が取得できます。
必須分野:【13】リハビリ（理学療法、義肢装具含む）又は【Re】運動器リハビリテーション単位

●日本リハビリテーション医学会生涯教育研修単位
取得単位:リハビリテーション科専門医1単位、認定臨床医10単位

〈 共 催 〉第16回日本運動器疼痛学会 ／ 日本臓器製薬株式会社